

教育目標	「学園は教える者と、教えられる者とが、相互の信頼によって生かされる精神的な共同体である。」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	(1)「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」、「自然愛や人間愛を大切にす豊かな情操」を培う。 (2)「日本人としての美徳を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。						
本年度重点目標	I 知育の推進 II 徳育の充実 III 健康な身体の育成 IV 豊かな生活の追及 V 家庭地域との連携 VI 生徒募集 VII 教育施設設備の活用						
重点目標	評価項目	令和05年度 具体的な方策または項目を評価する具体的な指標	令和04年度の実施状況 期末 R5, 3月	職員評価	職員コメント ◇:提言 ▲:改善 集計・まとめ 中間 9月	関係者評価	委員コメント ◇:提言 ▲:改善 集計・まとめ 中間10月
I 知育の推進	授業の充実と 難関大学進学に 向け啓発・ 学びの自覚向上	① 数・英等で発展学習実施 3grp編成と運行の工夫 英検3/P2/2級指導(放課後等) ② 国・数・英等で反復学習、底上げ推進 ③ 補習補強の柔軟な実施、自己学習力の育成 ICT活用:スタディサプリ運用の工夫 デジタル教材の運用の工夫 放課後プロジェクトの活用 授業のライブ配信 ④ 進路講演・キャリア教育等啓発指導・活動を 実施 上級生、OB、進路担当、外部講師招へい ※MIRAI Project構想(M/P) 企業と提携しキャリア教育推進 ⑤ 学力推移調査前後の学級/学年指導 個別目標設定や情報共有(中高関係職員) ⑥ 授業計画、副教材の見直し ⑦ 学習時間記録(スタディマーカー)と個別/ 一斉指導 学習状況把握とフィードバック(FB)による 学校家庭間指導環境改善	① 各学年英数の3grp習熟度編成を行い、より目的、タイムリーに指導した。諸状況を鑑みつつ、各学力層の学力向上を積極的に狙っていく必要がある。 ② グループ毎の学習についてよく検討し、目標を定め共有したい。ねらいを適切に確認して定期的に振り返りを行いたい。 ③ 放課後学習は、自習と指名補習を主に実施した。スタサブについては重点運用期間を設け一斉指導したほうが活用率自体は向上しそうである。ロイロ活用については機器は一通り揃ったので、各教科で活用事項を共有し一斉指導する部分を設けていくと機運が向上していくと思う。 ④ 2月にJ3対象進路講演、9月にJ2職業講話(海洋講演)を今年度も実施。M/PではJ2に明治製菓より、J3に矢崎部品より講師を招き、プロジェクト学習を実施した。 ⑤ 実カテスト毎の結果について情報を共有し、事前事後指導や授業改善に活かした。教科の状況を学年・部内でより明確に共有し、学力向上のための対策を計画的に実施していく必要がある。 ⑥ 副教材の目立った変更は特に行わなかった。授業時数とシラバス対応について検討の余地がある。 ⑦ スタディマーカーを終了し、明誠ダイアリーに学習計画や記録等を書き込むように変更した。運用方法をさらに工夫し学習の動機づけを改善していきたい。共通認識のもと活用方法は統一したい。現状では第三者に分かりにくい面があり、活用状況を懇談会等で広報できるようにしておいた方がよい。	A 25% B 62% C 3% D 10%	◇ 学力水準に応じて学習に興味を持てるよう工夫が必要。 ・ 学力レベルの高い生徒と低い生徒の差が気になるが、雰囲気の良い授業が展開されているように感じる。 ・ 学習意欲に差がみられる(中2) ◇ 卒業生(内進生)の学力や進学先をしっかりと検討し、カリキュラム等修正していく必要があると感じる。 ▲ 現在放課後プロジェクトの実施が曖昧なので、もっと効果的に実施できるように工夫したい ・ 副校長先生のご配慮で、夏休みに研修を行い、活発な意見交換がなされ、自分の授業の下支えができたと考えられる。 ◇ 中高一貫の長所を生かしつつ、生徒に自己分析させ、目標の設定と目標への努力過程の修正を何回もしていく必要性を感じる。 ▲ 難関大進学に向けての啓発ができていないと思わない。中高6年間で育てるという自覚をもち、各教員がもっと難関大について(入試問題を含め)勉強すべきである。また、そのような機会を設けるべきである。	A 13% B 63% C 24% D 0%	◇ 中高一貫という利点を活かせる工夫をお願いしたい。 ・ 幅広い分野で知識の習得をする機会が提供されているように思う。 ▲ ICT関連で上手に活用する方法がまだ醸成されていない。 ◇ chromebookをどう活かすのかさらに検討するべきでは。 ◇ 高校生との交流や情報交換を活用し、動機づけ向上に繋げてほしい。 ◇ 難関大に向けての啓発が早期にできる事が中高一貫の強みである。各教員の難関大を目指すモチベーションを上げないと生徒に伝わっていかない。 ▲ 明誠ダイアリーが活用されていないのでは。 ▲ 学校で購入したクロームブックが使われていない。
外部模試等で 学力把握 在籍 J3 72名 J2 68名 J1 63名	① ベネッセ学力推移調査三科目受験と事後指導 64以上 60以上 50以上 40以上 J3 3% 5% 21% 38% J2 3% 4% 24% 40% J1 5% 8% 26% 55% J1は第一四半期後設定する。 ※ それぞれの数値は単純の数値を表す ② 実力確認テスト(明誠高校入試)受験 J3:目標進路の学力水準達成 五科目 J2:基礎基本問題の習熟と確認 三科目 ③ 英検受験 年度末(2月)の時点 【J3 準2級以上 14% 3級 46%】 【J2 3級以上 40% 4級 35%】 【J1 4級以上 35% 5級 45%】 J1は第一四半期後目標設定する。 ※ それぞれの数値は単純の数値を表す ※ ()内の数値は昨年度の数値を表す ④ 各試験結果受取後の一斉学級/学年指導 情報や目標の共有 (中学部・高等部・教科担当)	① J3 9月② 64以上-6% 60以上-6% 50以上-23% 40以上-42% 4月① 64以上-3% 60以上-7% 50以上-13% 40以上-53% ボトムアップに課題が残る。数英の3グループ編成をさらに活用したい。早い啓発と具体的な対策が大切であることを再認識した。 J2 1月③ 64以上-0% 60以上-1% 50以上-24% 40以上-39% 9月② 64以上-0% 60以上-3% 50以上-22% 40以上-41% 4月① 64以上-3% 60以上-3% 50以上-22% 40以上-39% 見えにくい面もあるが徐々に向上している流れはある。上位層や中上位層の拡大に課題が残る。また、学習姿勢が改善されない者もあり、根気強く諸点ケアしていくことが大いに求められる。 J1 1月③ 64以上-1% 60以上-3% 50以上-24% 40以上-43% 9月② 64以上-0% 60以上-3% 50以上-26% 40以上-41% 4月① 64以上-0% 60以上-1% 50以上-33% 40以上-39% 上位層が若干向上した。引き続き同様にボトムアップを目指していきたい。啓発を行いつつ、生徒別に具体的に目標を持たせ指導していきたい。 ② J3 目標進路の学力水準達成率は約50%で目標を割る。要因は各教科の難化と中下位層の準備不足である。啓発と動機づけ、トレーニングについて課題が残る。 J2 既習事項に対してできる範囲内で解答していることを確認できた。3年進級時のスタートの切り方と年間学習計画に留意しつつ目的に対策を行っていききたい。 ③ 2月 2級-12(4)% 準2級-24(38)% 3級-37(37)% 4級-15(16)% 5級-10(3)% J3 10月 2級- 6(3)% 準2級-25(33)% 3級-37(36)% 4級-16(23)% 5級-13(3)% 準1級- 0(0)% 概ね底上げは継続され、上位層への受験意欲が若干高まった観がある。 J2 2月 2級-1(0)% 準2級-9(13)% 3級-32(36)% 4級-44(30)% 5級-16(19)% 10月 2級- 1(0)% 準2級-3(7)% 3級-27(30)% 4級-47 (40)% 5級-17(20)% 底上げ観が出ている。上位層への啓発や中位層への手厚いケアが引き続き求められる。 J1 2月 2級-0(0)% 準2級-0(1)% 3級-14(9)% 4級-25(33)% 5級-32(31)% 10月 2級-0(0)% 準2級-0(1)% 3級-7(5)% 4級-19(12)% 5級-35(36)% 後期になり受験意欲が比較的向上した。焦らせることなくコツコツと歩ませたい。 ④ 現状把握と対策について何をいつからいつまでに行うという「納期」の共通認識と一斉指導が大事。	A 30% B 49% C 3% D 18%	・ 担任や、国・数・英を中心とする担当教員の地道な日頃からの指導により、少しずつではあるが、具体的な偏差値の向上がみられた。 ▲ 各学力層の生徒の模擬試験対策などが必要。 ◇ 把握したあとにどうしているのか知りたい。 ◇ 結果のフィードバック、活用をもっと実施するべき ◇ エントリーシートの書き方等の指導も徹底して行っていきたい。	A 25% B 75% C 0% D 0%	◇ 学年・中学部全体で学力の底上げに力を注いでもらいたい。 ◇ 外部模試の結果分析について検討の余地あり。 ◇ 模試の結果が全てではないが、定期的実施していることにより校内データが蓄積されていると思われる。傾向を活かして生徒教員にとってよい対策を行ってほしい。 ◇ 中学時の学習不振防止の為の現状把握と早めの対策をお願いしたい。	

I 知育の推進	生きる力や総合力を はぐくむ活動の設定	<p>① 学習・体験活動等とその目標成果の整理・ 広報・見える化・発表等の総合力育成の場を 工夫設定 行事ごとの一斉指導 手立ての引き継ぎ ・MIRAI Project構想:企業と提携しキャリア 教育推進 J2・J3 10月～2月 ・体験入学プレゼンと校内ツアー実施 J2 6月 ・母校訪問と近況報告PR J1 7・8月 ・説明会のプレゼン担当や体験学習会の講師 ／助手 内進生J1～S1 通年</p> <p>② 実行委員会を組織した委員会・生徒活動 実行委員会と委員会の主体的な目標設定・ 活動の見える化</p> <p>③ 発達段階や興味を踏まえ、朝読書を奨励する ビブリオバトル等発展的活動の取り組み 成果のアウトプットと共有、周知</p>	<p>① 自己振り返りシートは通年活用ベースに戻り、全体の安定感が出たと 思う。行事レポートの作成などタイムリーに実践された。一方内容的に つっこみが多少欠ける印象はあった。現状では事前指導における一斉の ガイダンスが大事だと考えることが多い。ねらいの理解と共通認識を十分に 確保した上で指導し、成長を促したい。 J1の母校訪問は全方位的に学びの機会があり、良い経験となった。根気強く サポートを行い、諸点経験値を高めていくことができた。時期や手立ても適切 だったと思う。J2の中学体験入学ツアーでは小学生たちを比較的適切に リードすることができた。事後指導で振り返りをよく行わせ内容や手立てを 再考させつつ自分たちや周囲の理解もより深めさせたい。 説明会や体験学習会で登壇したり、講師助手として活躍したり、有志活動が 積極化し生徒としての自覚や責任、行動力が向上した。</p> <p>② 中学生徒会独自の取り組みが主体的に継続的に実践された。1年間の 謝恩会(2月)3送会(3月)などとても意欲的であった。他委員会にも積極性が 波及することを期待。</p> <p>③ 読書の成果を比較共有する機会を設け、集団育成にもつなげていきたい。 文庫本を携帯する生徒を昨年度より見かけるようになった。 後期に入りタガが緩んだ状況も散見され、臨機応変な対応が求められる。</p>	<p>A 34%</p> <p>B 53%</p> <p>C 3%</p> <p>D 10%</p>	<p>・ 様々なことに取り組んでいるように感じる。</p> <p>・ 学校行事や日常的な学校生活における成果が人間的な成長に 繋がっていると思われる。</p> <p>▲ 文字を書く機会が減り、他人に理解をしてもらうという意識が 不十分な生徒が増えている。文字が伝達手段で、書いていけば 伝わるという意識から変えていかないといけない。</p> <p>◇ 学校生活を送りながら、社会の現状や要請を自分たち にかかわるものとして理解できるようにさせたい。</p>	<p>A 25%</p> <p>B 75%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>◇ 母校訪問は訪問する生徒にとっても良い経験になると思う。継続して 頂きたい。</p> <p>・ 母校訪問は良い試みだと思う。卒業生から明誠の様子を見聞きする 機会が小学校に供与されることとなるため、ひいては志願者増に繋がる ものと期待する。</p> <p>◇ 自ら「地域貢献」や「共生」をテーマにして何ができるのかを具現化する ワークショップのようなものがあるとののではないか。</p> <p>・ 母校訪問や学校説明会等で生徒を参加させる事は生徒の自覚を 深めると共に募集にも良い効果が現れると思う。</p> <p>・ 朝読書は今後も継続してほしい。読書で体験して感じたこと等身近な 人たちとどんどん話してもらいたい。</p>
日本文化理解と 国際教養養成 (総合学習)	<p>① 日本文化理解行事実施【(2)回/年】 J1 自然体験、富士山学習、地域探訪 J2 寺社宿泊研修、企業/都市探訪 J3 寺社・精神文化調べ、企業研修、 地域・古都研修</p> <p>② 講演や交流会の実施・探求活動 J1 郷土・企業 J2 医療・企業・進路 J3 医療・企業・進路</p> <p>③ 英会話授業【週1回】とアウトプット実践 J1～J3</p> <p>④ 禅寺の活用</p> <p>⑤ 日本文化・国際教養講話/講演実施</p>	<p>① J1 4月国立青少年交流の家研修、10月竜ヶ岩洞、浜名湖遊覧 クルーズ、ヤマハイ/ノベーションロード、中田島砂丘等見学。 久々に県西部探訪が復活。 富士山学習を基に、柔軟な観点から切りこんで郷土理解に繋げたい。 J2 4月可睡齋宿泊研修。10月東京・横浜オータムキャンプ復活、 JICA(市ヶ谷)、科学技術館(千代田区)、東京大学(文京区) 卒業生講演、東京G/Pホテルテーブルマナー学習(文京区)、 JMU造船所(横浜市磯子区)、中華街昼食、日本新聞館(中区)見学 講習。企業研修と大学研修、卒業生講演等一通り揃い、充実感が 向上。バス4台で往復。 J3 4月小田原城/神奈川県立生命の星・地球博物館研修。久々に 神奈川県西部研修復活、好天で天守閣から絶景を鑑賞した。県外に 出るのも良い視点を得られる。10月関西修学旅行 4台のバスで往復 (3年目)、比較的オーソドックスな展開であった。3日目の班研修は タクシーを利用(3年目)。事前事後指導の深め方について検討の余地 あり。探求学習の事前事後指導等とも重なり、やり繰りは容易ではない だろうが年間計画をより密にして対応していきたい。</p> <p>② J1 7月母校(校長先生)訪問、10月ヤマハイ/C訪問、 12月「命の大切さを学ぶ教室」講演、 J2 10月「海洋講演」日本造船工業会、12月「命の大切さ」講演、 10・11月「MIRAI Project 職業講演・模擬企画職業体験」明治製菓 10月内進生OB東大生による進路研修 オータムキャンプ時 J3 10・11月「MIRAI Project 職業講演・模擬企画職業体験」矢崎部品 12月「命の大切さ」講演、3月S3卒業生進路講演 TT授業及びスピーチ指導を継続。11月J3世界の国々、12月J2日本の 各地、1月J1静岡の各地など名勝、行事、食べ物について、班ごとに テーマを絞り、各々ブースを設け、職員を招きプレゼンを行った。</p> <p>④ J2 4月可睡齋宿泊研修再開。学校生活や行事への波及効果を適切に 狙っていきたい。</p> <p>⑤ 当該学年だけでなく全体指導の際にも意識していくことは大切。 10月にJ2対象に海洋講演を実施。オータムキャンプ時横浜のJMU 磯子工場を見学したが、この講演は良い事前学習となった。</p>	<p>A 32%</p> <p>B 48%</p> <p>C 4%</p> <p>D 16%</p>	<p>・ 日本文化・異文化ともに、フィールドワーク等の実施ができています。</p> <p>◇ 国際教養科とコラボして、留学生との交流を持つ機会があれば よいと思う。</p> <p>◇ ひとりの人格の豊かな成長を目指すうえで、多面的な視点を 持つことは重要と考える。</p> <p>・ 学校行事等を活かして取り組みがなされているように思えるが、 はたして国際教養の素性に活かせるまでにはなっていないと思わ れる。</p>	<p>A 50%</p> <p>B 50%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>・ 様々な体験を学校行事で経験できるのはずばらしいと思う。</p> <p>◇ 総合学習は充実していると思う。単なる実施体験にならない ように過程を大事に事前学習などを行いたい。</p> <p>・ 地元を知り、日本を知ること世界を知ることができる。その観点から 古刹等で歴史や文化を体験することは重要な経験である。 国際的な交流が増えるとなおよい。国際交流協会を通じて異文化に 触れる機会があると良いのではないか。</p> <p>◇ 日本文化への関心理解を深めると同時に国際教養を早期に深めて いただきたい。</p> <p>・ 生徒にとって様々な体験は後々の糧になると思う。</p> <p>・ 学校の行事としていろんな体験ができることは大変良い。</p>	
II 徳育の充実	基本的な生活習慣の 確立・理解と自己 評価	<p>① 身だしなみと挨拶の指導 校風検査【1回/月】</p> <p>② TPOに合わせた所作・マナー・学習態度等を 発達段階をふまえて指導検証する 打合せ、中学部会等にて 情報交換し一斉指導の手立てを共有する</p> <p>③ 私物貴重品管理 金銭、腕時計、スマホ・タブレット等 整理整頓・清掃指導の徹底と振り返り</p> <p>④ 欠席・遅刻・早退の減少 基本的な生活習慣の確理解と維持</p> <p>⑤ 基本的な生活習慣近況について情報発信</p>	<p>① 年度当初4月の1年生向けの集会指導の必要性を感じる。 月例校風検査は男女別で継続実施。頭髮以外は担任によるフォロー 指導を行った。若干指導ムラが見られることもあり留意していきたい。</p> <p>② 生徒の精神的な成熟度や心構えにおいて発達段階の差が当然あり、 共通認識を保ちつつ辛抱強く指導に臨んでいく必要がある。 今年度は特にSNS対策や啓発に関して合同指導を折々行い、 トラブルの芽を摘んだ。中高一貫の意義を踏まえ、妥協することなく 対面指導を即実践していきたい。</p> <p>③ 限定的に一部私物の整理整頓や管理が甘い生徒がいるものの、 概ね適切に指導を継続することができた。共通認識と意思統一がまだ 望まれる面もあり引き続き実践力の向上に取り組んでいく必要がある。</p> <p>④ 欠席・遅刻・早退は前期においては昨年度に比べ減少傾向であったものの、 後期前半ではコロナや流感の影響で多少増加傾向に転じた。著しい怠学等 は見られなかったが、生活習慣が若干緩み学習にも影響が出た生徒が 一部いた。</p> <p>⑤ 各種アンケート、明誠ダイアリー等からの情報や諸活動状況を日常的に共有、 対策を検討した。目立ったことに関しては即時臨機応変に対応した。</p>	<p>A 36%</p> <p>B 50%</p> <p>C 7%</p> <p>D 7%</p>	<p>・ 担任のクラス経営を核にして、道徳や学級活動の時間等で、 基本的な生活習慣の確立をめざして取り組んでいるように 思われる。</p> <p>・ 一部欠席が目立つ。</p> <p>◇ 運動部以外の生徒の挨拶を徹底したい。</p> <p>▲ 学校生活の基盤となるものが家庭生活であるので、学校生活を 効率よく行えていない(緩慢な態度・生活習慣)生徒への呼び かけは必要であると思う。</p> <p>◇ ここ10年の感覚だが挨拶を積極的に行う生徒が減ったように 感じる。中学部全体で礼節の大切さを習慣化できる仕掛けを おこなうべき。</p>	<p>A 13%</p> <p>B 74%</p> <p>C 13%</p> <p>D 0%</p>	<p>◇ 道徳的指導の底上げが必要ではないか。高校部へ進級時、手本となる 内進生から下級生に助言を与えるなど機会を確保してほしい。</p> <p>・ 挨拶に関する取り組みは評価できる。多感な時期で、対応する先生方は たいへんだと思う。家庭で学校任せとならないよう注意喚起が必要。</p> <p>◇ スマホ関連の取り扱いには一定のガイドラインに沿った対策が必要。</p> <p>◇ 明るい挨拶ができるよう特に中学の段階でご指導頂きたい。</p> <p>・ 身勝手に、だらしなさを感ずるような身だしなみの生徒を見かけることは ない。</p>

	<p>特設道徳の充実と行動化</p>	<p>① 本校理念の浸透、一斉道徳講話実施【6回／年】</p> <p>② ボランティアの実施</p> <p>③ 自律性と社会性を培う場を設定し実践力行動力向上を図る リーダーシップ・フォロワーシップ涵養</p> <p>④ 交通マナーの指導と実践 交通安全教室実施</p> <p>⑤ 道徳教科書ノートを年間計画で使用 学習の記録を振り返り、共有する</p> <p>⑥ 情報端末使用時の人権問題啓発指導 講演実施と集会等で啓発指導</p> <p>⑦ 「いじめ」皆無の指導【調査3回／年】 三配りの精神の涵養</p> <p>⑧ 成果や伸長について情報発信</p>	<p>① コロナの影響で全学年対象の実施は控えたが、1・2年合同実施2回、3年合同実施2回、1年学級実施2回、の形で臨機応変に対応。</p> <p>② 中学生全員参加の取り組みは未実施となった。一方、継続的に説明会・体験学習会等へ登壇するなど積極的な活動を行う生徒もいる。</p> <p>③ 主要行事の他に、中学入試関連行事・MIRAI Project探求活動等において自主・自立の精神を培い、発揮することができた。継続が大事。</p> <p>④ 5月に警察による交通安全教室を体育館で実施した。座学のみ、12月には「命の大切さを学ぶ教室」を中高全校で受講し意識を高めた。</p> <p>⑤ 教科書・ノートの活用が昨年度より進んだ。PCやスクリーンも使われるようになった。年間計画に基づき狙いを一層明確化し実施していきたい。</p> <p>⑥ 5月中高全校の周年記念で吉本興業のかじがや氏によるネット社会講演を受講し、ネット社会の注意点について学んだ。7月においても中高でネット依存対策講座(webアンケート実施)を受講し、専門家による現状分析を視聴し、自己分析やメタ認知を促すことができた。</p> <p>⑦ 「いじめアンケート」と「生活アンケート」の実施により、生徒の生の声を聞く機会が増加し、生徒指導がより密になったと感じる。中学部単独の講演は未実施だが、中高全校での講演や中学部の集会指導を通して啓発指導を適切に行えた。例年同様油断禁物であることに変わりはない。</p> <p>⑧ 部会での情報共有や懇談会・面談を適切に機能させた。中学部通信の発行は滞り、この点は要検討。</p>	<p>A 29%</p> <p>B 52%</p> <p>C 4%</p> <p>D 15%</p>	<p>・一斉講話等をふくめ、実施がなされているが、成果のほどは未知数である。</p>	<p>A 0%</p> <p>B 100%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p> <p>・道徳については通常の学校生活でも日常的に指導することが大事。</p> <p>・自由が声高に訴えられるからこそ、個々の良識がより重要視される時代になったと思う。</p> <p>・協調性を醸成する場としての集団教育と他人を慮る社会的行動を学ぶ場としての学校の在り方に引き続き期待したい。</p> <p>▲ いじめの実態はアンケートで十分に拾い出すことができるのか。ネットの普及でより潜在化していくのではないかと危惧している。</p> <p>◇ ネット社会講演が実施されたとありますが、積極的な取り組みをお願いしたい。</p> <p>◇ 交通安全教室は講習直後は注意する意識も高いが、時間が経つにつれ薄れる。普段からの注意喚起をお願いしたい。</p>
II 徳育の充実	<p>個の尊重と主体性の醸成</p>	<p>① 情報交換で個の把握【定例会実施】</p> <p>② メイセイダイアリの点検、熟読とコメント</p> <p>③ 個別指導には、養護・カウンセラー・生徒課等チームの活用</p> <p>④ 中学生生徒理解研修会【全職員で実施】 成長面・プラス面も共有</p> <p>⑤ 心理検査の実施と評価の活用</p> <p>⑥ 随時良い点や現れをフィードバック、全体で共有</p>	<p>① 日常的かつ定期的な情報交換により、迅速な生徒指導が可能。協働体制を維持しながら、生徒個別の対応に配慮した。</p> <p>② 生活帳を有効に活用し、意思疎通や問題解決に効果的につなげた。学年により点検の頻度が異なり、検討したほうがよいと思う。</p> <p>③ カウンセリングの活用が徐々に自然に進み定着した。外部組織の知見の有効活用が常套手段となり、精度向上した。</p> <p>④ 行動のあらわれを共有し、近況把握や生徒理解の向上に努めた。中高一貫の生徒指導力向上に資するという目的を都度確認したい。</p> <p>⑤ KJQ等本年度は未実施も、ネットアンケートや生活アンケートなどの結果により各々の生徒の傾向を複合的に観察することができた。これらの情報の共有がとりわけ功を奏したと考える。</p> <p>⑥ 職員間や家庭と学校間のコミュニケーションの風通しのおかげで情報を共有し、協同していく環境を維持することができた。</p>	<p>A 34%</p> <p>B 52%</p> <p>C 3%</p> <p>D 11%</p>	<p>・中学生徒会のような組織がしっかりとあると良い。</p> <p>・担任を中心に、明誠ダイアリー等でのキャッチボールがなされており、生徒間との意思疎通がなされていると推察される。</p>	<p>A 0%</p> <p>B 87%</p> <p>C 13%</p> <p>D 0%</p> <p>◇ 担任外、生徒と先生方の密な関わりにより、信頼関係をつくるのがキーになるのでは。</p> <p>◇ 学校での様子が共有できる仕組みがあるとよい。</p> <p>・ 中学部での生徒会の存在は関心事である。</p> <p>・ 学校と保護者の良い関係が保たれていると思う。同時に期待もしている。</p> <p>・ 生徒に寄り添う指導をされており安心感がある。</p> <p>▲ 明誠ダイアリーの活用ができていないのでは。</p>
III 健康な体の育成	<p>団体行事の用意(団体行動や行事運営の基本も学習)</p>	<p>① スポーツデイ実施【参加率98%以上、(2)回／年】 相手・チームメイト・周囲への理解・敬意調和と切磋琢磨</p> <p>② 耐寒持久走取り組みによる身心の錬磨 事前の安定した生活習慣・体育での的確な準備啓発【参加率95%以上】</p> <p>③ 体育大会／中学部運動会の活用 チームワーク醸成・団体種目の記録向上</p> <p>④ 武道奨励 時数の確保 武道実施ねらいの理解と浸透</p> <p>⑤ 部活動奨励【参加率85%以上】</p> <p>⑥ ダンスデイ実施 明朗快活爽やかで、円滑かつ規律ある運行 周囲への理解と感謝の気持ち 創意工夫</p>	<p>① 9月 今回は恒例のサッカーやドッジボールなどの球技ではなく、中学生徒会を中心に中学部運動会を企画し、リレー、綱引き、借り物競争、○×クイズ等を男女学年混合形式で実施した。コロナの影響で延期後実施。3月サッカー(男子)とドッジボール(女子)を実施。参加率達成。</p> <p>② コロナ小売状態により栃山川外周コースを再開することができた。運営面での滞り等もほとんどなく協力的で前向きな運びとなった。通常の体育の授業の成果もあり、生徒たちは適切にランニングしていた。実施後の学校生活の出席状況が好転しており生徒たちの逞しさが感じられ印象的であった。参加率達成。</p> <p>③ 中高体育大会は昨年同様フィールド内にて行進を簡略し実施。控えめな印象は否めないが、できる範囲内で適切に各種競技を行っていると感じる。中学部運動会では競技性よりもむしろコミュニケーション性の方に重きが置かれた。</p> <p>④ 男子は柔道の指導を実施した。 ねらいの理解と浸透について手だてを引き続き検討していきたい。</p> <p>⑤ スクールカラーを涵養し、集団育成する好機として参加を促している。 加入率: J11: 97%, J12: 94%, J21: 97%, J22: 89%, J31: 85% J32: 100% 全体: 94% 2年連続前年度より3%増加。 概ね参加意欲が高い(外部クラブ参加は除く)。</p> <p>⑥ コロナ小売状態で11月予定通り実施。参観者は100名超で好評であった。コロナ対策を行い、参観者も生徒も適切に行動した。節度を適度に保ち明るく活発に演技と鑑賞を楽しむことができたと思う。進行面はもうひと頑張りしてほしい。前後の挨拶を工夫した方がさらによいだろう。事前指導の精度を確保したい。</p>	<p>A 47%</p> <p>B 40%</p> <p>C 3%</p> <p>D 10%</p>	<p>・公立中学よりは、お金をかけ、実施できている。</p> <p>・スポーツデイ等の学校行事を中心に、生徒会のメンバーと意思疎通がなされ、行事運営の取り組みができていくように思われる。</p> <p>・MDやダンスディなど他の中学ではない行事も多くなってきている。</p> <p>◇ 文化的な行事が増えるとうれしいと思います。</p>	<p>A 87%</p> <p>B 0%</p> <p>C 13%</p> <p>D 0%</p> <p>・他では見られない団体行事があり、明誠中学ならではのよい。</p> <p>・心技体のバランスをとって実施されているので評価できる。</p> <p>・中学部の部活動も魅力のあるものが多いので積極的に対外アピールしていくとよいと思う(公立中では軒並み縮小傾向にあるため訴求力がある)。</p> <p>◇ 教職員のA評価をうれしく思う。コロナ明け生徒の友情が一層深められる様をお願いします。</p> <p>・参加することで自主性を高めることにもつながっている。</p> <p>▲ 中学生徒会の意思疎通はできていない気がする。</p>

IV 豊かな生活の 追及	特別活動や課外 活動の準備と充実	<p>① キャリア教育の一斉の主体的計画的取り組み 探求:MIRAI Project MD内に設定</p> <p>② 青藍祭に、部・学年・学級で参加 創る力や実践力を磨く場とする リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 展示物には価値観教育への成果を記す</p> <p>③ フィールドワーク【(2)回/年】、芸術鑑賞 自身の思考力や発想力向上に資する体験 学習を行う 事前事後指導の充実</p> <p>④ 行事や活動のまとめと発表・展示 学びについて自己分析し、学校・日常生活の 改善に向けてヒントを得る</p> <p>⑤ 学習集団の向上(行事・授業等活用) プレゼンや議論を活かし、コミュニケーション 力や創意工夫する力、洞察力を上げる。 学年混成集団で活動することにより、自他への 関心を深め、共通体験の価値の理解を深める</p> <p>⑥ 各種団体の文芸コンテストに参加 想像力を発揮し、自他の理解を深め、お互いに 学び合う仲間であることを自覚する</p> <p>⑦ 自分の長所・短所について行事ごとに振り返り、 自尊心や自己有用感獲得に繋がるヒントを 得る</p>	<p>① 主に後期の「総合」の時間を十数時間配当しキャリア教育を探究活動の 視点から実施した。学年を13グループに分け、それぞれ課題を見つけ、 解決する手法を模索した。ガイダンスと講評など(株)矢崎部品様 にご指導頂いた。生徒たちは主体的にGWを行い、答えを導き出した。</p> <p>② J1はオリエンテーションキャンプ、J2は可睡齋の展示をおこなった。 J3はアトラクションを展開、集団育成の好機となった。</p> <p>③ 4月と10月に予定通り各学年それぞれ行事を実施できた。 タイムリーに事前事後指導を行い、生徒たちに考察を促した。 今年度は積極的に多彩な活動に取り組み、充実した。 芸術鑑賞教室ではRPGエンターテインメントによる最先端テクノロジー ショーが行われた。パフォーマンスを通して参加型のプログラミングを 体験する機会となり、今までにないパターンの教室になったと思う。</p> <p>④ ワークシートによる掲示が適時に行われたり、クロームブックによる プレゼン作成が積極的に進められたり、アウトプットの機会は適度に 確保された。プレゼンでは必然的にチームワーク中心になり客観的に 思考し、コミュニケーションをとることが求められるため、分析力やメタ 認知能力を涵養しつつ、生活のクオリティ向上にも繋がっていった。</p> <p>⑤ 一つ一つの活動の重点目標の繋がりを踏まえ、年間の運営を意識する ことにより、年間を通して育てる生徒像を明確に学年と部で共通認識して おく必要がある。取り組む活動が充実してきていることを考慮すると、 振り返りも含めて活動を充実させていきたい。スポット企画になると 教育効果が分かりにくくなるので注意する必要がある。</p> <p>⑥ 定番のコンテスト等参加を継続していきたい。良い作品を発表鑑賞する 機会を設け、他者やコンテストの狙いの理解を深めることによって集団 育成を促進するチャンスにしたい。</p> <p>⑦ ワークシートの自己分析において、「自分は～するようになった。」、 「他者の～を～考えるようになった。」などといった到達点(自己認知)を 表現させ、耳聞に終始しないよう活動や行事の振り返りを行わせたい。</p>	<p>A 38%</p> <p>B 50%</p> <p>C 1%</p> <p>D 11%</p>	<p>・中学生の生き生きとした活動が日常的にみられる。</p> <p>・文化祭等への参加意識は、以前より高くなっているように見える。</p> <p>・MIRAI Projectの実践等、キャリア教育の主体的取り組みが 昨年度以上に目に見えて行われていたように推察される。</p> <p>◇ 中学女子の部活動の受け皿がもっと増えると良いと思います。</p>	<p>A 25%</p> <p>B 75%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>◇ 将来についていろいろ考えるヒントとなる機会が一層増えることが 望ましい。また、より表現力・プレゼン力が求められているため アピール方法や人への伝え方見せ方などを学ぶことで、起業や クリエイティビティを身につけるきっかけになることを望む。</p> <p>◇ 早期のキャリア教育の実施で自らの生き方選択できる力を養って いただきたい。</p> <p>・学業に力を入れることは大事ですが、体験学習での学びは初めて 気づく事、発見があり特別なもの。こういう機会があるのは生徒に とって良い。</p>
V 家庭・地域との 連携	対話の増加	<p>① 面談の奨励(希望面談も用意)【4回/年】</p> <p>② 懇談会・保護者会等実施</p> <p>③ 行事関係文書・アンケート等配布・配信 【2週間以上前】</p> <p>④ 内進高校生の情報も含め生徒・ 中学部近況の発信 中学部だよりや説明会等の活用</p>	<p>① 4月新年度個別面談①、7・8月夏休み三者面談、11月個別面談②、 6・11月オープンキャンパス期間希望面談、11月～2月適宜個別面談 による進級指導等実施。コロナの影響に遮られることなく対話の機会は 確保。</p> <p>② 6月 地区別懇談会(交通安全対策・夏期の準備)、 9月 J3修学旅行説明会(学年懇談会・進級準備含む) 2月 学年学級懇談会 参加率5～8割前後</p> <p>③ 各行事2週間前後前に通知を配布。さくら連絡網による通知は常套 手段として活用した。それぞれの使用について整理しておくことよ と考える。健康関係や行事の変更追加等にさくら連絡網を活用した。</p> <p>④ 3月J2J3対象に大学進学の基本や現状について説明を行い 目標の再確認と進路意識の高揚を図った。 内進生独自の進路ガイダンスの在り方を探りたい。啓発機会は早期から 確保していく必要がある。</p>	<p>A 38%</p> <p>B 47%</p> <p>C 1%</p> <p>D 14%</p>	<p>・担任中心に家庭連絡を密に取っている。</p> <p>・各担任が、各家庭との連絡を密にとっている。</p>	<p>A 25%</p> <p>B 75%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>・中学部ではまだまだ家庭、担任との関わりが必要であるので、連絡が 密にとれていることはよい。</p> <p>・各担任の先生が密に連携をとっていると思われる。面談日程など 柔軟に対応して頂いているのでたいへんありがたい。</p> <p>・家庭との密な連絡が信頼の基となっている。</p>
	広報活動の充実	<p>① 中高通信文書等の発行【5回以上/年】</p> <p>② さくら連絡網・SNSの活用</p> <p>③ オープンキャンパスや説明会等での アンケート実施</p> <p>④ 行事や発表会の開放</p>	<p>① 定期的に時節の学校活動の近況とそれにまつわるニュース等を紹介し 啓発と学校理解を促進した。中学部通信等の発行は棚上げとなった。</p> <p>② コロナ対応等、休校や行事予定変更に関する保護者への連絡手段 として活用し、よく機能し常套手段となった。</p> <p>③ アンケート内の各意見・提案や質問に対し適切に対応した。 参加率は50%前後で推移している。</p> <p>④ 青藍祭、体育大会、ダンスデイ、持久走会、芸術鑑賞会などを開放。 通知を配布し周知した。ダンスデイは今年度も好況、フィールドワークの 報告会等は他の行事の準備や推進のため本年度は無し。 MIRAI Projectの発表会を探究活動の成果として開放するのも 検討していきたい。 広義では、中学校体験入学や理科・英語体験学習会も行事の開放に に含まれると思う。上級生や内進の高校生がリーダーシップを取っ ている姿を見てもらうことは広報の充実にも資する。</p>	<p>A 44%</p> <p>B 39%</p> <p>C 5%</p> <p>D 12%</p>	<p>◇ 中学部の良さをもっと地元地域に発信したい。</p> <p>◇ さくら連絡網に関しては、日常的な活用法がなされているが、 普段の学校生活の様子等をSNS等を活用して学校内外に発信して いくことがさらに不可欠である。</p>	<p>A 63%</p> <p>B 37%</p> <p>C 0%</p> <p>D 0%</p>	<p>▲ SNSの活用が十分でない。また、HPIにおいて中学の活動など発信して いくことは必須である。</p> <p>◇ プライバシーに配慮しながらより対外的にSNS等で開示していく必要が ある(訴求力が高い)。</p> <p>見える化推進(どんな先生がいて、他校と異なる特色は何かなど。 教員や生徒あるいは保護者など様々な立場の人を巻き込むなど)。</p> <p>・ SNSの利用が広報充実の鍵を握る。</p> <p>・ さくら連絡網の活用が以前より増えた。紙面だと失念されることも。</p> <p>・ さくら連絡網が活用されておりよい。</p>

VI 生徒募集	渉外活動の充実	<p>① 説明会、体験入学／学習会 講習会 アンケート結果の活用(改善・FB・PR等) 現役生徒の活用 名簿の整理、DMの活用</p> <p>② 小学校や塾への渉外活動</p> <p>③ 各種行事の活用</p> <p>④ リーフレット・ポスター作成 グッズの活用</p>	<p>① ・説明会 5/8:40世帯、6/18:61名、7/9:76名、8/6:85名、 8/20:約50名、10/2:84名、10/22:50名、11/5:約110名 オープンテストや体験学習会と同時開催し、関心を高めた。 新しい情報を生徒が登壇し伝えることにより、保護者に訴えかけ 学校理解を深めた。延べ数は前年度より若干減少した。 ・6年理科体験学習会 8/20:37 前年比 100% ・講習会 ①9/14:43名(申込49)、 前年比 94% ②10/12:57名(申込59) ②減 前年比 94% ・オープン①8/6:82名(申込85)、②10/2:79名(申込81) ③11/5:84名 ②③で約2割減少。前年比 92% ・入試 一次 79名:単5 併21 前年比 99% 二次 5名:単5 募集定員70名になり5年目、62名入学予定。併願が9名増加。 単願率が86%から75%に減少(一昨年と同水準)。女子は40%から 50%に増加。HPの事前申し込みを主にリーフレット・Tel・e-mail等 にて受け付けた。また適時DM、ちらしを出したり、Teによる勧誘 相談活動を展開した。年度中盤以降の方策について検討の 余地が残る。 ・4・5年説明会 7/9:76名、10/22:延べ約50名、2/23:約100名 ・4・5年体験学習会 英語10/22:36名(申込38) 前年比 70% 理科 7/9:67名(申込69)、2/23:94名 前年比 100% 申込に締切りを設けた。 生徒の登壇や動画の活用など変化を持たせる部分にも留意し、 共感関心を高める工夫を凝らした。またアンケートにより参加者の 情報収集に努めた。</p> <p>② 小学校訪問約100校。5・6月(学園祭前)・7月(理科体験前)・ 10月(英語体験前)・2月(理科体験前)等を基本として訪問。 5月は訪問約束を行った上訪問。 志穂・小笠・静岡地区諸々の塾を訪問。「学校案内」・「入試行事 リーフレット」・学園祭／体験学習案内・通学バス案内・通学費補助 案内等配布。</p> <p>③ 学園祭、定期演奏会等学校関係者に対して招待した。</p> <p>④ 入試行事年間予定リーフレットに加え、各種リーフ(講習会・オープン テスト・体験学習会・通学補助支給等)をひと月以上前から配布ないし 送付した。体験学習会用自家製ポスターを校外外で適時掲示推進した。</p>	<p>◇ オープンテストを実施した。一定の成功は収められただろうが、 回数は要検討。 ・ 学校説明会、体験授業、プレテストと地域に広く呼びかけられて いると感じる。 ◇ チャリーディング部の小学生向け、行事があると良いかと思えます。 ◇ 学校のHPの活用も含め、SNSの活用法をいかし、対外的に もっと発信していくことが生徒募集に不可欠かと思われる。</p>	<p>A 49% B 40% C 3% D 8%</p>	<p>◇ HP/SNSを活用し、幅広くPRをしていく必要がある。 ◇ 明誠にしかない絶対的な特長とは何か、特に中学はここがはっきり すれば魅力はさらに上がるはず。特に静大附属、東海大、静学、 常葉は競合となるが、単なる一貫校の中学部ではない部分をどう アピールするかが重要。 ◇ 理科体験会は好評のようなので模擬講座のような催しを定期的 に行ってより親和性の高いイベントが継続できるとよいと思う。 ◇ 説明会に現役生徒の保護者の生の声を紹介すると選ぶ側の 大きな参考となると思う。 ・ 生徒募集は学校経営の要。SNSの利用も含め更なる努力が必要。</p>
VII 教育施設・ 設備の活用	快適な教育環境の 実現	<p>① 教室内外整理整頓、施設管理、 電源管理の徹底、管理目的の理解 【放課後巡回 複数回／日】</p> <p>② 駐輪場管理</p> <p>③ 設備・備品の保全 【放課後巡回 複数回／日】</p> <p>④ 防災教育と訓練の実施 【2回／年】</p>	<p>① 学級や学年集会等にて、身の管理・整理について指導を継続した。 概ね例年通り一定の水準を維持した。実践力を向上させるという意味 においてはねらいの理解に課題がまだ残っている。 内部進学生として強みを育成するために何を理解させ、実践させていく のかといった視点を常に念頭に置く必要がある。とても大事な当たり前の ことであり、また将来大きなメリットにもなる事柄である。</p> <p>② 男女に腕力差があり、使用方法上生徒会を中心に提案し改善を試みた。 自転車の施設と鍵管理や私物の管理について時折紛失が報告される など啓発指導も含めて検討の余地が残る。</p> <p>③ 適宜啓発しつつ、HR・集会指導や巡回指導を行い保全に努めた。 時折本館男子トイレの使用に際して粗相が見られたり、掃除備品を 適切に扱わなかったり、設備を破損するなど常軌を逸することも見ら れた。件数としては若干増加した。。 机椅子の保全については消耗状況を鑑みると注意して見ていく必要が ある。</p> <p>④ 4・9月防災避難訓練実施。ともに一次・二次避難訓練実施。</p>	<p>・ 老朽化が気になる箇所があり、つぎはぎしている部分があるが、 充実した施設である。 ▲ 教室の空調設備が不十分であったり、未だに3階理科室等で 空調設備がなかったりして、抜本的な改革が急務である。 ▲ 東館トイレの修繕必要では。 ▲ エアコン設備 クラスによってスイッチ破損あり。 ◇ 新たな製氷機設備の導入。</p> <p>A 21% B 51% C 16% D 12%</p>	<p>◇ 学校設備の整備が必要である。設備が整っていることが必須。 ◇ 設備の更新には優先順位があり、大変であろうと察するが 学校生活の安全のため適宜推進をお願いしたい。 ◇ 物品の盗難対策(外部・内部とも)について検討されたい。 ・ 教育環境の整備は私立学校にとって重要な課題である。 ◇ 老朽化への対策をお願いしたい。</p> <p>A 0% B 63% C 24% D 13%</p>	